

## 『歴代寶案』校訂本第五冊の刊行に際して

沖縄県教育委員会教育長 仲里長和

我が沖縄県は、他県に例を見ない独自の变化に富んだ歴史を歩んできました。中央や九州からも遠く海を隔てた島国という地理的条件が、沖縄の独特な歴史を形成した大きな理由といえるでしょう。日本本土・中国・韓国・東南アジア諸国とほぼ等距離の位置にある沖縄は、これらの国々の政治・経済・文化等の大きな影響を受けながら独自の歴史を形成してきたのです。

なかでも中国との進貢・冊封の関係は、沖縄の歴史を飛躍的に発展させました。一三七二年、中国の洪武帝は、琉球へ使者を派遣して、明国の建国を告げ、入貢を促してきました。これに应えて琉球国中山王察度は、弟の泰期を派遣して進貢品を納めました。ここに初めて中国との進貢貿易、正式の国家間交渉が開始されたのです。以来、明治の初年に至るまで五〇〇年間に及ぶ親密で長い琉球・中国の交流の時代が続きました。

琉球国は、中国との進貢貿易を軸にして一四世紀末からおよそ二〇〇年にわたり、朝鮮国、シャム・パタニ(現在のタイ)、マラッカ(現在のマレーシア)、スマトラ・パレンバン・スンダ・ジャワ(以上現在のインドネシア)、安南(現在のベトナム)等の国々と交易を行い、東アジアの一大貿易国家へと発展しました。

これらの国々と交わした外交文書は、原文書あるいは写や控などのかたちで外交を専任する久米村の天妃宮に保管されてきました。しかし、長い年月の間に、これらの筆写文書や控文書も破損・散逸のおそれがたため、王府は久米村にその編集を命じました。このようにして一六九七年に『歴代寶案』第一集四九冊が二部作成され、首里王府と久米村にそれぞれ保管されることとなりました。この第一集には、一四二四年から編集時点の一六九七年までの外交文書が収録されています。その後、一六九七年から一八六七年までの琉球・中国間の往復文書は、第二集二〇〇冊・第三集一三冊として編集され、ほかに別巻八冊(内、二集目録四冊)が現存しています。

しかしながら、『歴代寶案』の王府本は、廃藩置県の際に明治政府に引き継がれたといわれていますが所在が不明です。また久米村本は、一九三三(昭和八)年に旧県立図書館に移管され、去る沖縄戦で散逸しました。しかし、幸いなことに旧県立図書館に移管された久米村

本から影印本と写本が数種作成されて残っています。

沖縄県は、平成元年度から、これらの現存する影印本・写本をもとに、『歴代宝案』の編集事業に着手し、平成三年度から刊行を開始しました。この編集事業の目的は、

一、『歴代宝案』は、中・近世およそ五〇〇年にわたる外交関係往復文書で、沖縄の対外交貿易史および外交交渉史を解明するうえで第一級の同時代史料であり、またこの間における東アジア世界の動向をも知りうる貴重な史料であること。

一、膨大かつ難解な漢文史料であるが、本文を校訂し、訳注本等を作成して、これを利用しやすい形に編集することによって、今後の歴史研究の進展に役立て、併せて一般への普及をはかることで、国際化時代における県勢発展の基礎史料として活用できること。

であります。

本年度は、沖縄県歴代宝案編集委員会及び沖縄県歴代宝案編集調査委員会の御尽力により校訂本第五冊（第二集巻三一～四九）を刊行することになりました。内容は、乾隆一五（一七五〇）年～同三〇（一七六五）年間の尚穆王の請封と冊封・進貢・接貢・謝恩・中国漂流民の送還・琉球漂流民の送還等の貴重な中国との往復文書が収録されています。県民をはじめ研究者の間で広く活用されることを願っております。

最後に、校訂を担当された生田滋先生をはじめ、影印本・写本及び関連史料を所蔵する国内外の各機関に深く感謝申し上げ、刊行のこ

とばといたします。

一九九六年（平成八）三月